

# 研究主題「自他を大切にし、夢や目標に向けてよりよく 生きようとする生徒の育成」

～「考え、議論する道徳」の視点に立った授業の創造～

三芳町立三芳中学校

## 1 研究主題の設定理由

本校の学校教育目標「格好いい中学生」を具現化するためには、他者を尊重する思いやりの心に加え、倫理観や規範意識を高めていくことが重要である。また、近年、不登校生徒が増加傾向にあり、周囲の人・集団・社会との関わりを大切にし、望ましい人間関係を構築できる力を育成することが喫緊の課題であると考え。

このことを踏まえ、自分の考えをもつとともに、互いの考えを尊重しながら議論し合える道徳教育へ転換していくことで、相手を思いやる心や人間関係を構築できる力の育成につながっていくと考えた。その際、ICTを教材提示や議論の手立てとして効果的に活用したり、TTによる指導を充実させたりすることで「考え、議論する道徳」の視点に立った授業を確立し、自他を大切にしながら夢や目標に向けてよりよく生きていこうとする生徒を育成するために本主題を設定した。

## 2 研究の仮説

新学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえ、指導方法の在り方を明らかにするとともにICTの活用やTTによる指導を充実させることで、「考え、議論する道徳」の視点に立った授業を確立し、自他を大切にしながら夢や目標に向けてよりよく生きていこうとする生徒を育成することができるであろう。

## 3 研究の経過

時 期	研修会・授業研究等	内 容
4 月	研究推進委員会	・研究計画の立案・決定 ・研究組織と内容の確認及び全職員の共通理解を図る。
8 月	校内研修	・校内研修会 各研究部の活動内容の確認。計画立案。
10 月 26 日	校内研修	<講演会> 演題：「考え、議論する道徳」の授業を実現するための指導方法について 講師：西部教育事務所 佐藤香織先生
11 月 11 日	授業研究会 講演会	1 年 3 組 小村政広教諭「あったほうがいい」 <講演会> 演題：考え、議論する道徳を創る ～教材「あったほうがいい？」を基に考える～ 講師：開智国際大学 教育学部 土井雅弘先生

11月30日	いのちの授業	2年生対象 「いのちの授業」 講師：三育大学 母性看護学 助教 中 理恵先生
12月14日	授業研究会 講演会	2年1組 萩原大貴教諭 児玉幹生教諭 「ハゲワシと少女」 <講演会> 演題：令和の時代に生かす、道徳科の指導と評価 ～しなやかな授業で 生徒の心の活力を育む～ 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 特任教授 永田繁雄先生
1月～3月	校内研修会	今年度のまとめと来年度の計画
3月9日	いのちの授業	1、3年生対象 「いのちの授業」 講師：三育大学 母性看護学 助教 中 理恵先生

#### 4 研究の内容

##### (1) 授業研究部の取組

###### ① ICT授業研究部

- ・実感を伴った資料提示や自分ごととしてとらえられる教材提示等をするためにICTを活用した。
- ・ICTを使って意見や考えをとりまとめたり、まとめたものを提示したりすることにより、話し合いを深める手がかりとして、生徒が「見方・考え方」を自在に働かせるようにした。



###### ② TT授業研究部

- ・令和元年度より実施している学年ローテーション授業にTTを組み入れた。TTの授業では、役割分担を行うことで授業の流れをスムーズにし、発問の方法を工夫することで、生徒が活発に意見を言える環境をつくった。
- ・TTによる道徳の授業を実施することで、多面的、多角的に考えることを促し、生徒の考えに寄り添い、内面に働きかける支援を充実させた。

###### ③ 県独自の道徳教材「彩の国の道徳」の活用

- ・1学年では、「豊かな日本を目指して～日本近代経済の父・渋沢栄一～」の教材を取り扱い、大河ドラマとの内容も絡めながら「埼玉の偉人」について学習し考えを深めた。
- ・2学年では、「上級学校を訪ねて」の教材を取り扱い、学活で行った進路学習を関連させ、きまりやマナーを守ることの大切さを考え議論する道徳の授業に取り組んだ。
- ・全学年において、日常の学校生活や各行事の場面で、「心のほっとストーリー」を活用し、道徳的実践につなげていくよう努めた。

## (2) 環境整備部の取組

### ① 道徳コーナーの設置

- 教材ごとに、生徒の道徳ノートの記述内容を載せた掲示物（教材名、内容項目、イラスト写真等を載せる）を作成し、各教室や学年の道徳コーナーに掲示した。

### ② 校内の環境整備

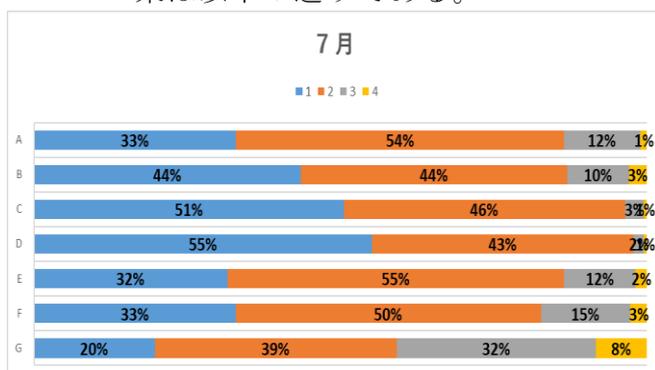
- 校内の様々な場所（階段、廊下、トイレ、手洗い場等）に、道徳的価値に関する掲示物を掲示した。



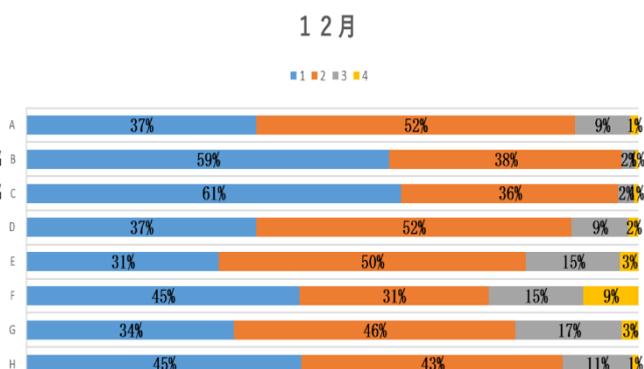
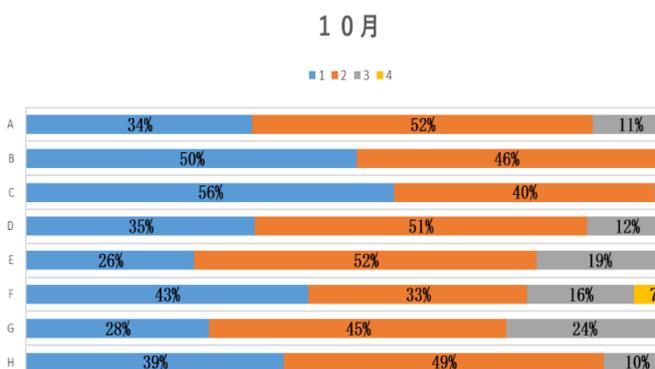
## (3) 調査研究部の取組

生徒の実態や意識の変容を把握するために、道徳に関するアンケートを7月、10月、12月と行った。

3回の変容を分析し、数値が低い項目を向上させるように、学年間で話し合いながら、授業の進め方や板書、発問の工夫をしていく。今年度のアンケート結果は以下の通りである。



- A 道徳の時間が好きですか？  
 B 道徳の時間が自分の生き方や考え方に影響していると思いますか？  
 C 友達の見聞を聞いて、自分にはない考えに気付くことがありますか？  
 D 友達の見聞を聞いて、なるほどと思ったりすることがありますか？  
 E 自分にはよいところがあると思いますか？  
 F 将来の夢や目標を持っていますか？  
 G 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか？  
 H 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができますか？
- 1：当てはまる 2：まあまあ当てはまる  
 3：あまり当てはまらない 4：当てはまらない



## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 教職員・生徒に定着してきたローテーション授業にICTやTTの授業を組み込むことにより、授業の活発化につながった。
- ICT（タブレット）を使用した授業について
  - ・発表が苦手な生徒も考えを伝えることができ、また、多くの意見に触れることができた。

- ・学級全体の意見を瞬時に把握し、共有することができ、すぐに活用し、話し合うことができた。
- T Tによる授業について
  - ・板書、ワークシート配布、範読等を役割分担することで時間の短縮が図れ、考えさせる時間を十分にとることができた。特に意見を聞きながら板書をするので、多くの意見を吸い上げることができた。
  - ・机間指導、話し合い活動、ワークシート記入では、複数の目で生徒を見ることができた。話し合い活動では、多くの班に教師が助言することができ、より活発になった。また、対立の構図をつくることもできた。
  - ・複数で行う安心感が指導者とともに生徒にも生まれ、普段消極的な生徒も話し合い活動に積極的に参加していた。
- 道徳に関する掲示物を掲示することで、学級や学年の生徒の意見を知り、授業で考えたことをさらに深めることができた。
- 道徳の時間や各教科、特別活動を通して、規律ある態度を育むことの重要性を考えさせることができた。また、生徒会の取り組みで「あいさつ運動」を行い、あいさつの慣行を意識させることができた。
- アンケートを行い、実態を把握し、授業の工夫をすることにより、「道徳の時間が好き」「自分の生き方・考え方に影響する」「自分にはない考えに気付く」「友達の考え方に気付く」の項目について数値の向上が見られた。

## (2) 課題

- I C Tを取り入れた授業については、使用する手段が目的になってしまったり、話し合う場面が静かになったりしてしまう場合がある。導入で使うアンケート等はあらかじめ授業前に答えさせ、集約した資料をわかりやすく掲示することが望ましい。従ってタブレットの使用は、深く考えさせるツールとして使用し、「考え、議論する道徳の授業」を展開していく工夫が必要である。
- T Tの授業については、事前準備の段階で綿密な打ち合わせが必要である。その中での役割分担を明確にし、連携を図ることが大切になってくる。そのことでより価値のある意見を採り上げて全体に周知したり、意見をさらに深めさせる声かけをT 1 T 2それぞれがどう働きかけたりするかが課題である。また、生徒の発言やワークシートへの記載内容を複数の目で把握し、意図的な指名ができるとうよい。どの場面で深く掘り下げ、どのような発問を準備するか等十分打ち合わせを行い、生徒が考え議論していく中で「納得解」が得られるような授業を展開していきたい。
- 3回のアンケート調査の結果、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」「自分の思いを表現できる」の項目においての数値がやや低い実態があるので、今後も研究を続けさらなる道徳授業の充実や環境の整備を行い、生徒の自己肯定感を高めていきながら、本研究のテーマ「自他を大切にし、夢や目標に向けてよりよく生きようとする生徒の育成」に努めていきたい。